

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム すまいる

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200111		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市崎鍬ヶ崎9-39-34		
自己評価作成日	令和6年10月23日	評価結果市町村受理日	令和7年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかに心地よく生活していただけるよう、利用者様を主体とした、安心安全にできる暮らしを第一に考えケアを行っています。近隣に同グループの老健やグループホームがあり、行事等も合同で行ったり、情報共有をしながら利用者様に必要な支援ができるよう努めています。
築20年を超える建物ではありますが、開放感のあるホールや水回り、エアコン設備を更新し、利用者様に快適に過ごしていただけるよう、必要箇所の環境整備を随時行っています。新型コロナも5類に分類され、徐々に地域の方々との行事を行ったり、外出する機会も増えています。
地域貢献活動の一環として、認知症カフェへの参加の他、地域包括支援センターや他事業所から依頼を受け、地域の方々を対象とした、認知症の症状を分かりやすく説明する寸劇を、他ホームと協力して行うなど認知症への理解を深める活動も行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県立宮古病院から約2kmの国道45号沿いに法人の老健施設があり、その近隣に3つのグループホームがあり、当ホームはその中で最初に開設された事業所である。“共に生き、共に笑い、助け合い”の理念をケアの実践に繋げることを運営の柱としている。食事は、利用者の希望を伺いながら旬のものを取り入れた献立を職員が考え、手作りのものを提供しており、利用者からは「おいしい」と好評を得ている。また、ホームが立地する地域は防災意識が高く、避難訓練には近所の方々が協力してくれるなど、心強い。ホーム長自身も今年、防災士の養成講座を受講して資格を取得するなどして、積極的に取り組んでいる。隣接の老健施設とは訪問看護師の派遣や、重度化した場合の受け入れ先などで良い連携体制が取られており、家族にとっても安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム すまいる

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見えるところに掲示し、共有を図っている。また、ホームの目標に沿って個人目標を設定し、定期的に個人面談をして進捗を確認している。毎月のカンファレンスや業務会議内で理念に沿ったケアができているか話し合っている。	理解しやすく大事な言葉が含まれていることもあり、開設当初からの理念を継続し、職員への浸透を図っている。月1回の業務会議やカンファレンスの際に、理念に沿ったケアが出来ているかについて振り返っている。また、年度初めには、各職員が理念に沿った具体的な個人目標を設定し、ケアに生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	餅つき大会や夏祭り、敬老会等行事を開催し、地域の方や近隣のホームや地域の方、ボランティアや実習生の受入れ、こども園の子供たちとの交流を通じて、日常的に交流を深めている。	地域との交流は徐々に復活しており、餅つき大会には近所の方も来所している。近くの小規模保育所では敬老会でカードをプレゼントされ、利用者は喜んでいる。また、市役所ホールで開催する認知症カフェには、職員が講師やスタッフとして参加しており、事業所の持つ強みを生かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェに毎月職員が参加している。また、不定期ではあるが市や地域包括支援センターの依頼で認知症の症状を分かりやすく解説した寸劇を近隣のホームと協力して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回ホームで開催している。市役所職員、地域包括支援センターの職員や地域代表、民生委員、家族代表等に参加いただいている。年度初めの運営推進会議は、近隣の3ホーム合同で開催し、委員の顔合わせを行い、防災等の活動について確認した。	運営推進会議は昨年11月から集合開催となっている。委員には、地域から民生委員や中学校長、地域ボランティア等が参画し、集合開催となって以降は率直な感想や意見が出されている。職員の異動後の名前と顔が一致しないとの意見があり、お便り等でお知らせする予定である。	理念には“地域社会の一員である”と掲げており、地域との連携や交流を更に推進するために、自治会長等の参加も有意義であると思われます。声掛けされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただいている他、認知症カフェへの参加や集団指導や研修会への参加も行い、顔の見える情報共有や連携を図っている。	運営推進会議には市役所と地域包括支援センターから、職員が毎回参加しているほか、市役所訪問時には担当課に立ち寄って相談したり、情報交換している。また、災害対応時には市役所から避難や被害状況の確認メールがあるなど、気をかけていただいている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修(eラーニング)やホームの勉強会でも毎年必ず身体拘束の勉強会はしており、身体拘束を行わないケアを実践している。	運営法人全体として身体拘束適正化委員会を2ヵ月毎に開催し、事業所からはホーム長が参加している。委員会の内容は緊急を要する場合には申し送りノートに記載し、それ以外は議事録を回覧して周知している。職員の研修はeラーニングや職員会議での勉強会でやっている。スピーチロックもたまに見られるため、職員会議で振り返りを行い話し合う機会を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会(老健と合同)内で虐待や虐待に繋がる行為がないか確認している。 施設内研修(eラーニング)やホームの勉強会でも毎年必ず高齢者虐待防止法の勉強会を実施し、利用者様が安心安全に生活することができるようケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している利用者様はいないが、ホーム内での勉強会や外部の勉強会に参加し、必要時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申請時や入居前に、ご希望のある利用者様や家族様には見学をして頂き、不安な点や疑問に思うことなどを聞き、わからないことがあればいつでも応えることができるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様からの要望を支援時または面会や電話連絡等で伺った場合は、申し送りノートに記入して職員間で共有したり、業務会議で話し合いをしている。 内容によっては運営推進会議で報告や意見をいただき、ケアの提供に反映するように努めている。	運営推進会議で家族代表の委員から、異動で職員が代わっても顔と名前が一致しないので、広報で知らせてほしいとの意見があり、すぐ対応することとしている。家族には意見等があれば返送してごさいと知らせているが、寄せられることはない。利用者代表も運営推進会議に参加し率直な感想を話してくれている。	家族からの率直な意見や要望を寄せってもらうため、例えば事業所が独自に匿名での家族アンケートを行うなどして意見を把握し、運営改善に役立てるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用し、気づいたことを記入している。月1回業務会議を行い、意見交換の場を設けている。	業務会議でケアの改善について話があったり、職員間の申し送りノートにも何でも自由に記入してもらっている。築20年以上経過している施設の修繕に関する意見も良く出され、優先順位を考えながら備品の更新等に対応している。職員との個人面談は年2、3回行っており、プライベートな相談を含め話し合っている。	

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最低でも年2回個人面談があり、個人目標の進捗状況を確認したり、業務や労働環境について相談するなど、職員が向上心を持って働くことができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に管理者がそれぞれ対象者を選別、または希望者を参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内のホームとの連携や「いわて地域密着型サービス協会」の勉強会に参加する等他事業所との交流を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談・見学・訪問調査時に本人様の困っていることや不安なことなどに耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・見学・訪問調査時に家族様の困っていることや不安なことなどに共感し共に解決できるように、安心感を持っていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・見学・訪問調査時に本人様と家族様が必要としている支援を見極め、必要と感じた際には他のサービスの利用提案なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のできること、得意なことをお願いしたり、職員と一緒にいたりしている。また、やって頂いたことに対して感謝を伝えている。		

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真付きのお知らせの中で本人様の状況を伝えている。体調の変化があった際には連絡を密に取り合っている。受診をお願いしている家族様もあり、共に本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にかかっていたかかりつけ医を継続したり、友人の面会があり、馴染みの関係を継続できるよう努めている。	コロナ禍以降に、家族以外の知り合いが訪問してくる方もいる。通院の帰りに実家の周辺を訪ねたいという希望に沿って、ミニドライブで巡って関係の継続を支援している。理容は毎月の訪問理容を楽しみにしている。また、ユーチューブで宮古のお祭りを見て、利用者は喜んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地の良い居場所や相性を考慮した食席の配置を工夫したり、職員が間に入り仲介を行うことで利用者様同士の交流を図ることができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居した場合は、退院後の相談を受けたり、医療連携室や居宅介護支援事業所と連携を図り、次の生活の場にスムーズに移れるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で本人様の意向の把握に努めている。また、職員間で共有しカンファレンス等で話し合いを行っている。	思いや意向を言葉で表せる方は6人程であり、家に帰りたいや食べ物についての希望が良く出されている。ラーメンを食べたいとの希望には、それに沿って提供し喜ばれている。言葉で表現出来ない利用者には、職員がコミュニケーションを通じて感じ取り汲み取るよう努めている。お花の先生だった利用者には、花生けを勧めたところ喜んでくれた事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査時に本人様、家族様、担当ケアマネに伺ったり、入居後にお話を伺って得た情報を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の残存機能を把握できるよう、本人様の状態観察を心掛け、変化があれば申し送りノートで職員間で共有できるようにしている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム すまいる

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、課題と短期目標について話し合い、評価・見直しを行っている。家族様には説明、同意を頂き現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化があれば家族様に報告、相談し介護計画を立案している。	入居当初は暫定的なプランとし、概ね3か月後には居室担当者の意見等をもとにケアマネがプランを作成し、職員カンファレンスで検討のうえ正式決定している。モニタリングは主にケアマネが行っており、これをもとに概ね3か月毎にプランの見直しを行っている。なお、ケアマネは近隣の系列グループホームと兼務している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに日々の気づきを記入したり、ほのぼのネクストを活用し支援経過を入力している。カンファレンスで話し合い職員間で情報を共有しながら実践を行い、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて近隣のホームや他事業所と連携し、柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	看護学生の実習やこども園からの慰問を受け入れたり、行事の際に地域の方やボランティアの方に来て頂いたり、近隣の農園に行き、ブルーベリー狩りや栗拾いを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り入居前にかかっていたかかりつけ医を継続している。また、急変時には訪問看護ステーションと連携し24時間相談・指示を仰げる体制をとっている。	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者が多く、宮古市内の5カ所の病院やクリニックに通院しており、1人以外は職員が通院に付き添っている。看護業務は隣接の老健施設にある訪問看護ステーションから週1回看護師の定期訪問があり、緊急時でも相談できる体制が整っており、安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループ内の訪問看護ステーションからの定期訪問が週1回あり、その他でも24時間電話相談や訪問していただいている。		

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には迅速に介護サマリーを作成し、入院前の状態を報告している。普段から医療連携室と情報交換を行い、相談し合える関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化している利用者様はいないが、医療機関やホームの環境上看取りは難しいと考えている。家族様にはホームでできることを説明し理解を得ている。医療ケアが必要になった場合は、グループ内の老健や療養型の病院と連携し、本人様の状態に合わせた居場所の検討を行う。	現在は看取りは行っておらず、重度化し事業所の浴槽が利用できなかった場合には、グループ内の老健施設や特養ホームへの住み替えや療養型の医療機関への変更になることが多い。家族には予め説明のうえで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、いつでも見られる場所に置いている。救命救急講習も定期的に受けており、訪問看護ステーションの看護師からも相談や指示がもらえる環境にある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災の消防訓練を実施している。人が集まることへの不安があり、地域の方の不参加が続いている。地域の福祉避難所になっている為、近隣のホーム、地元消防団や地域の方々と協力し避難所開設の訓練を実施した。職員が防災士の養成研修講座に参加予定となっている。	火災想定避難訓練は年2回行っており、近所から5人の住民の方が協力者となってきている。ホーム自体が福祉避難所に指定されており、食糧等の備蓄も3日分程度を備えている。また、ホーム長自身が今年になって防災士の資格を取り、地域の崎山防災士会に所属し意識が高い。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の意思を尊重し、プライドを傷つけないように言葉のかけ方、声の抑揚やトーンなどを工夫している。	人生の大先輩として尊重し、丁寧で親しみやすい「さん」付けで声掛けしている。排泄の失敗時には、周囲に知られないよう耳元で安心するように声掛けし、着替えや後始末を行っている。入浴の際も着替えを見られないよう配慮し、異性介助を嫌う方には、意向を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でさりげなく希望を聞いたり、利用者の自己決定が難しい場合は、選択肢を提示して自己決定できるように働きかけている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	作業や日課の声掛けは行うが、無理強いせず、本人の意欲や意思を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には利用者様の着たい服を選んで頂いたり、選べない利用者様には選択してもらっている。季節や天候に合わせた服装ができるように支援している。 毎日化粧をしている利用者様もあり、家族様と相談して品物を用意してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望に沿いながら、季節の旬の物を活かしたメニュー提供を心掛けている。行事食など目からも楽しめるものを考えている。食事の準備や食べ終えた食器を片付けたり、テーブルを拭いたり、1人1人できることをお願いしている。	献立は職員が利用者の好みや冷蔵庫内の食材をもとに考えている。利用者は昔ながらの煮物や魚類を好み、行事食等の際には刺身も提供し喜ばれている。隣接する老健施設の管理栄養士からは、年2回ほどアドバイスを得てメニューに反映している。利用者は配膳準備や食器拭きなどを手伝っている。誕生日には本人の希望する食材を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目を目標に季節の野菜を中心に献立を立てている。1人1人の食事や水分摂取量を記録している。体調や既往歴等を考慮しながら栄養・水分が不足しないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、介助が必要な利用者様には職員が支援している。 月に一度協力歯科医院の先生より口腔衛生にかかわる助言をいただき、適切なケアの実践に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮しながら排泄チェック表を活用し、できるだけトイレで排泄できるよう定時で声掛けや誘導を行っている。	排泄チェック表を活用しながら、各利用者の排泄パターンを確認し、プライバシーに配慮し誘導時には耳元で声掛けを行なっている。利用者は全体的に身体機能が落ちてきているが、日中は全員がトイレを利用している。オムツの使用者はおらず、リハビリパンツとパッドの併用者が大半となっている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム すまいる

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操などの定期的な運動の声掛けや水分摂取量の把握、食事の工夫を行い、かかりつけ医や訪問看護ステーションの看護師に相談しながら下剤との併用も行い、排便コントロールできるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後が多いが、入浴日以外でも希望があれば対応できるよう努めている。 強い拒否があった場合は時間をおいて声を掛けたり、無理せず他の方と代わったり、気持ち良く入浴できるように1人1人に合わせた支援をしている。	週3回の入浴ができるよう体調等を確認のうえで調整している。季節を感じられる菖蒲湯やゆず湯は利用者に好評である。利用者が自分で出来ない部分を手伝う形で支援している。職員と1対1で接する時間であり、利用者からは本音も話され良いコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間の目安はあるが、基本的には好きな時間に休んでいただいている。 1人1人に合わせた居室の温度や明るさなどを調節することで安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の薬剤情報をファイルし、通院記録と共にすぐに閲覧できる場所に保管している。 薬の変更や追加があった場合は、申し送りノートにも記入し職員間で共有、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様からの訴えや家族様からの情報等を考慮し、利用者様が楽しめる行事を企画したり、ドライブや散歩で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出は受診時以外はまだ行っていないが、個々の希望や行事企画等が出かけることができている。	お花見ドライブでは、市内のさくらつつみ公園などに出かけ、近所に咲く八重桜の名所まで散歩で出かけて楽しむこともある。また、宮古港に入港した豪華客船を見学に行ったり、サクランボ狩りや近所のブルーベリー狩りなどに出かけて味見もして、外出を楽しんでいる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは個人の現金は預かっていない。ホームの立替で好きなものを購入することが出来る。買い物の希望があれば同行したり、ホームに訪問して頂いて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎月写真付きのお便りをを送付している。家族様から電話が来た際は代わって話したり、希望があれば電話をかけるなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から自然の光が差し込み、天井が高いワンフロアになっており、開放感がある。玄関やホールに季節感のある装飾を飾ることで季節を感じられるようにしている。食席から台所が見えるため、音や香りなど五感で食事を楽しむことができる。	事業所の中心に利用者が集う広いホールがあり、テーブルとソファ、畳の小上がりが配置されており、利用者はそれぞれの場所で寛いでいる。ホール内は天窓から差し込む光で明るく、壁面には季節感のあるクリスマスの飾り付けがなされ、暖かい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽の当たる玄関先、ホールや食席、居室など好きな場所で自由に寛げるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が自宅で使っていた家具や好みの物を置いたり、ベッドやテレビの位置を安全に配慮しながら、本人様や家族様と相談しながら決めて、居心地良く過ごせるよう支援している。	居室にはベッドとクローゼット、小タンス、洗面台が備え付けられており、床暖房とエアコンで室内は適温に保たれている。利用者は自宅からテレビや馴染みのタンス、家族写真などを持ち込み、壁には子ども達から届いたカードや歌手のポスターなどが貼られ、居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分からなくなっても利用者様が確認できるようにネームプレートを良く見える位置に掲示している。		